**●「自然と音楽」のコンセプトとは**

2011年の東北の大震災がきっかけで誕生いたしました。震災当時私はロンドンにおりましたが、映像から目に入った自然の猛威を前に、人類の無力を痛感いたしました。それから2か月後、わたしは居ても立ってもいられず、イタリアの国営オーケストラと追悼演奏を計画し、「海」をテーマにさまざまな作品を演奏しましたが、舞台上で響き渡る音楽のあまりの美しさに、そこに居合わせた人たちが、私も含め追悼すら忘れて音楽に聴き入り、癒されていた経験が、その後わたしに新たな気づきを与えてくれました。

自然本来の姿を表現するのがベートーヴェン以降の音楽の持つ特性です。有名な「田園交響楽」は自然を音に象った極めて象徴的な作品です。厳密に言えば、もちろん17世紀生まれのヴィヴァルディなどが「四季」といった楽曲を作り上げておりますが、もう少し大きな括りで言うならば、ロマン主義というものが西洋に台頭するようになると、文学や絵画の影響の下、音楽の世界にも風景描写や怪奇的な世界を表現する「ロマンティシズム」というものが生まれてきます。もとは教会音楽のなかで神を賛美する手段だった音楽が、やがて世俗の手に亘り、多くの音楽家の手を経て、ベートーヴェン以降、自然を表現するようになっていくのです。音楽家がそういった「自然を象った」音楽を演奏することがほとんどと言っていい今日、実は音楽を演奏する側が、音楽の持つ本来のメッセージに立ち戻ることは、あまり意識の中になかったと言ってもいいと思うのです。わたしをそこに引きずり戻したのが、ある意味震災の大きなショックでした。

音楽家が自然を表現すること。音楽というメッセージの「矢」が自ずから「放たれる」環境を作ることが、自分のミッションであると思うようになったのです。

●**なぜ植樹なのか**

日本に帰国したある日、テレビでご年配の男性が横浜国大のキャンパスに座って、キャスターと話しているのを偶然見かけました。横浜国大のキャンパスに植樹して、それが10数年たったら立派な⒑数メートルを超す森になっている現実と、語られる言葉の力強さは、私にとって天啓でした。その森に囲まれて座っておられたのは、国際生態学センター長で横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生でした。宮脇先生はこれまで世界中で4000万本を超えるおびただしい数の植樹をされました。これまで鎮守の森を再生する活動や、熱帯地方で不可能とされた植樹事業を成功させ、今では岩手県大槻村で震災がれきを「資源」と捉えて、その瓦礫を森に変え、「いのちの防潮堤」を作っておられます。まるで厄介者だと思われていたものが、木や微生物の働きによって、この世に必要なものに蘇るこのお話。わたしは宮脇先生の語られる植樹を通じて、「負が正になる」瞬間を目の当たりにしました。この素敵なお話は、耳が聴こえなくなる絶望の中、ベートーヴェンが「遺書」までしたため乍ら、ハイリゲンシュタットというウィーン郊外の自然に癒されて行くうちに、交響曲第2番や第3番「英雄」を作曲して見事な精神的復活を遂げるストーリーをわたしに思い出させてくれました。

今回は生きた伝説、宮脇昭先生にご出演を快諾いただき、6月2日（月）に宮脇昭先生の講演会を19時半より横浜開港記念会館で主催いたします。ピアニストのイリーナ・メジューエワ女史にもご協力を頂き、講演会の前にメジューエワ女史のミニコンサートもお楽しみいただけます。

**●「鎮守の森・記憶の森」構想について**

森はひとの記憶と繋がっています。森には人々の暮らしの記憶が存在するのです。長い年月に亘り培われた記憶は、自然の奥底に沈殿し、多くのひとの記憶を経て豊かに育ち、それが森となる、というのが、わたしのアーティストとしての森に対する見方です。森の木を伐採し、その樹を使って家を建てることは、昔から行われてきた人間の営みでした。でもその森に住むひとびとは、森のなかに自らの記憶を植え付けてきたのです。そしてその記憶は親から子へと、代々歌い継がれてきました。

わたしは幼いころ、横浜と鎌倉の境を通る「かまくらみち」界隈に住んでおりました。そこには木々が鬱蒼としげる森が、氏神様でもある舞岡八幡宮の御神体として四方に広がり、私ども子供達はそこでカブトムシやクワガタを取り、野鳥を追いかけまわし、時には蜂の巣を攻略してスズメバチに追い回されたりと、腕白三昧の毎日を繰り広げておりました。ザリガニ釣りをして近所の沼から100尾以上の大漁となったこともあります。ですが宅地開発の森林伐採により、その昔私どもが分け入った動物たちの棲家のほとんどが様変わりし、八幡宮の裏山にあたる県立舞岡公園以外、何も残らなかったのです。ただ、その胸に「かまくらみち」と「ぐめうじみち」の道標となる庚申塚を抱きながら、ニ百数十年の間この場所守り続けてきた老木「スダジイ」だけが、道路建築計画の狭間でひっそりと佇んでいます。私たちが子供のときに見た「記憶の風景」を、これからの子供たちが見ることは、もうできなくなってしまったのです。

こういった日本古来の風景を、現在は「里山」という形で呼ぶことが多いようです。こういった日本各地に残っている原風景を見て回ると、必ずと言っていいほどに神社の存在、そして、その社を囲む「鎮守の森」たちに行き当ります。そしてこの「鎮守の森」を、日本人は古くから神社の御神体として崇め奉ったのです。我々の祖先が畏れ敬った「目に見えない」風景を共有することが、その地方に伝わる「祭り」でした。そして先祖代々伝わる「鎮守の森」の「自然」を畏れ、敬い、そして何より「受け継ぐ」ことが、実は日本文化の原風景で

あったような気がするのです。それこそが日本に古くから伝わる「祭り」の意義なのではないでしょうか。

私は1997年から2011年までイタリアのローマを指揮音楽活動のひとつの拠点としておりました。ローマの街と言えば、数あるヨーロッパ諸国の中でも特に遺跡が多いことで知られております。ローマ時代の遺跡は言うに及ばず、ローマから西南にトゥスコラーナ街道を進むと、ローマ人以前のエトルリア人の遺跡が、円形劇場とともにTusculum（トゥスクルム）という形で存在します。そこは海抜約400ｍの高台にある、森に囲まれた素敵な草原です。この場所を3000年に亘り、世界中の人間が共有してきました。そこを訪れたゲーテは、その素晴らしさを堪能し、後に多くの芸術家や思想家がこの場所を訪れます。マネという絵描きもこの風景に深く感銘を受け、この記憶を絵にしたためた一人です。

音楽はベートーヴェン以降「自然」を表現し続けてきました。音楽という「世界の共通言語」によって、今一度「鎮守の森」に代表される「日本の自然」を皆さんとともに体感し、「自然との共生」について考えたい、というのがこのプロジェクトの大切なコンセプトです。

**●村中大祐（指揮者）によるNature and Music「自然と音楽」オーケストラ・プロジェクト**

昨年からオーケストラ・アフィア（AfiA）を立ち上げ、東京の鎮守の森である浜離宮朝日ホールで演奏会を重ねて参りました。この6月3日と10月2日の2日間、神奈川県立音楽堂「木のホール」で演奏会を開催いたします。

●指揮者村中大祐による「自然と音楽」演奏会シリーズとは。。。

2013年7月より「自然と共生・共存する」という立場から、英国と日本の両所で、Nature and Music「自然と音楽」というテーマによります一連の演奏会を開始いたしました。英国ではロンドンのカドガン・ホールで名門「イギリス室内管弦楽団」と、また日本では「オーケストラ・アフィア（AfiA）」と「自然と音楽」をテーマとした演奏会を続けております。

●オーケストラ・アフィア（AfiA）の活動の特色について。。。

昨年2013年は出雲大社の遷宮、そして伊勢神宮の式年遷宮が執り行われました。我々も昨年10月の式年遷宮に合わせ、まさに「満月」に鎌倉鶴岡八幡宮若宮にて奉納演奏を執り行いました。御神前で「身を浄め」、「穢れをはらう」なかで、古来から伝わる「満月の不思議」の下、西洋音楽の響きのなかに「日本のこころ」を投影することができたように思います。

指揮：村中大祐

演奏：オーケストラ・アフィア（AfiA）、イギリス室内管弦楽団

コンサートマスター

三浦章宏　　　　　　　 （東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

ロベルト・バラルディ　　　（イタリア・ヴェネチア・フェニーチェ歌劇場コンサートマスター）

ステファニー・ゴーンリー　（英国・イギリス室内管弦楽団コンサートマスター）

ダンカン・リドル　　　　　(英国・ロイヤル・フィルハーモニックコンサートマスター)

渡辺美穂　　　　　　　 （大阪フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター）

●「自然と音楽」演奏会シリーズのこれまで

1. 2013年7月15日（月）～7月16日（火）村中大祐指揮/Orchestra AfiA第１回演奏会

Nature and Music Vol.1 **「海、そしてゲーテの見たもの」**東京浜離宮朝日ホール

コンサートマスター：三浦章宏（東京フィルハーモニー交響楽団）

曲目：　メンデルスゾーン 「フィンガルの洞窟」序曲 、

モーツァルト 交響曲第36番「リンツ」k.425

メンデルスゾーン 交響曲第4番「イタリア」

1. 2013年10月16日（水）～10月18日（金）村中大祐指揮/Orchestra AfiA第２回演奏会

Nature and Music Vol.2 **Der Mondnacht 「満月に寄す」** 鶴岡八幡宮　若宮・東京浜離宮朝日ホール

コンサートマスター：ロベルト・バラルディ（伊フェニーチェ歌劇場コンサートマスター）

曲目：　 メンデルスゾーン　弦楽八重奏曲（弦楽オーケストラ版）

シェーンベルク　 浄められた夜（弦楽オーケストラ版）

　　　　モーツァルト　 嬉遊曲K.136　ニ長調

③　2013年11月6日（水）英国ロンドン・カドガンホール　村中大祐指揮/イギリス室内管弦楽団

Nature and Music Vol.1　 **“Natural　Poem　and Music”**

ソフィー・ベヴァン（Sop）,アレーナ・バエフ（Vn）,ユーリ・バシュメット（Vla）

コンサートミストレス：ステファニー・ゴーンリー

曲目：　ベンジャミン・ブリテン 「イリュミネーション」、モーツァルト 協奏交響曲変ホ長調k.364

 　　　アルヴォ・ピャールト 「カントゥス」（B・ブリテンの思い出に寄す）

 　シェーンベルク 「浄められた夜」（弦楽オーケストラ版）

④　2014年2月21日（金）東京浜離宮朝日ホール　村中大祐指揮/ Orchestra AfiA第3回演奏会

Nature and Music Vol.3　**Elfentanz「妖精の踊り」**

（歌と語り）波多野睦美ほか

コンサートマスター：三浦章宏（東京フィルハーモニー交響楽団）

曲目：メンデルスゾーン　「真夏の夜の夢」（全曲）、ベートーヴェン　交響曲第2番

⑤　2014年４月２日（木）英国ロンドン・カドガンホール　村中大祐指揮/イギリス室内管弦楽団 演奏会

Nature and Music Vol.2　 **“Nature in Romanticism”**

曲目：ベートーヴェン　エグモント序曲　、　シューマン　　チェロ協奏曲

ベートーヴェン　交響曲第6番「田園」

⑥　2014年6月３日（火）神奈川県立音楽堂　「鎮守の森・記憶の森」プレ演奏会

Nature and Music Vol.4 「**伝説～レジェンド～」**村中大祐指揮/Orchestra AfiA第4回演奏会

イリーナ・メジューエワ（ピアノ）

コンサートマスター：三浦章宏（東京フィルハーモニー交響楽団）

曲目：メンデルスゾーン　「美しいメルジーネの物語」序曲　、　シューマン　　ピアノ協奏曲

ベートーヴェン 交響曲第3番

⑦2014年10月2日（木）　神奈川県立音楽堂

Nature and Music Vol.5村中大祐指揮/Orchestra　AfiA第5回演奏会

三浦章宏（ヴァイオリン）

コンサートマスター：渡辺美穂（大阪フィルハーモニー管弦楽団）

曲目：ベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲

メンデルスゾーン　交響曲第3番「スコットランド」